

南ぬ風

Vol.6
2008.1~3

冬号

財団の事業紹介「国内最大級の洋蘭展示会」沖縄国際洋蘭博覧会「ほか



ふしぎがいっぱい

公・園・点・描

首里城公園

西のアザナ

アザナとは物見のことで、東西に長い首里城の敷地の両端に、東のアザナと西のアザナがあります。本曳門の南側に築かれた西のアザナの眼下には、那覇市街が広がり、晴れた日には慶良間諸島まで一望できます。

この西のアザナでも、東のアザナや右掖門と同様に明治12年の琉球処分まで、漏刻門の時を報せる太鼓に呼応して、同時に鐘を打って城下に時刻を報せていました。

財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団広報誌

季刊誌

南ぬ風

冬号
Vol.6 2008.1~3

編集・発行/財団法人 海洋博覧会記念公園管理財団

2008年1月4日発行

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川424番地 TEL.0980-48-2741(代) FAX.0980-48-3339

(財)海洋博覧会記念公園管理財団 kaiyohaku.jp

国営沖縄記念公園 oki-park.jp

(沖縄美ら海水族館、海洋文化館、熱帯ドリームセンター、首里城)



C O N T E N T S

- 03 沖縄の色・形
八重山の歴史と風土に育まれた染めと織り
八重山上布、八重山ミンサー
取材協力／石垣市織物事業協同組合、竹富民藝館・竹富町織物事業協同組合
- 06 沖縄日和
民族音楽との出会い 文＝声楽家・民族音楽研究家 比嘉悦子
- 08 財団の事業紹介
国内最大級の洋蘭展示会 ～沖縄国際洋蘭博覧会～ [植物課]
沖縄の外来種問題 [魚類課]
ジュゴン調査 [海獣課]
首里城正殿御道具の復元について [首里城公園]
- 16 沖縄の民話
猿長者 資料提供 /NPO 法人沖縄伝承話資料センター
- 18 公園NEWS & イベント情報
海洋博公園
新春果報でーびる／冬休みイルカ学習会／第29回海洋博公園
全国トリムマラソン大会／美ら海花まつり／平成19年度沖縄
国際洋蘭博覧会／海洋文化館 アジア・オセアニアの民族芸能
披露 ガムラン演奏会／黒糖作り体験／三線演奏体験／植物の
クラフト作り／植物園ガイドミニツアー／グラウンド・ゴルフ
首里城公園
新春の宴／首里城花まつり
- 20 ふしぎがいっぱい公園点描
西のアザナ 首里城公園



【 経 営 理 念 】

沖縄の宝、地球の宝を次の世代へ

世界の宝・沖縄の自然と歴史を通して、

一つひとつの生命と出会い、

地球の素晴らしさや自然の大切さ、

時をかけて育まれた文化の尊さをまなび

豊かな未来へ継承・創造していきます。

そして、訪れたお客様に「感動」と「満足」をご提供します。



表紙イラストについて
遠見台(熱帯ドリームセンター)
東 光二(あずまこうじ)
一九五五年糸満市生まれ。'76年
東京デザインナー学院卒業。'83
年個展(ギャラリー波留)。'88年
個展(ギャラリータカ)。'98年「ト
ヨタ自動車」カタログ表紙イラ
スト13点製作。'05年個展(那覇
市民ギャラリー)。'06年「沖縄振
興開発金融公庫」カンレンター
画製作、「国立劇場おきなわ」
製作。玉城朝薫の組踊ポストカード

八重山の
歴史と風土に
育まれた染めと織り

八重山 ミンサー

清楚で気品あふれる八重山上布。
絣模様が艶やかな八重山ミンサー。
八重山を代表する伝統工芸品だが、
人頭税制時代の過酷な歴史も秘めら
れている。八重山の豊かな自然の中
で、その伝統を守り続けている工房
を訪ね、それぞれの特徴や織物工芸
の現状について伺った。

八重山上布

原料は八重山の自然の恵み

八重山上布は、人頭税という過酷な歴
史の中で「貢納布」として洗練されてき
た麻の布である。戦後、一時すたれかけて
いたが、八重山上布の再生に心血を注い
できた女性がいる。一九九八年に「現代の名
工」に選ばれた新垣幸子さんである。そ
の新垣さんの工房を訪ね、八重山上布につ
いて伺った。

八重山上布の原料となる糸や染料など
は、すべて植物から採れ、まさに島の自然
の恵みと言えるものである。糸になる苧
麻は多年草で、方言で「マウー」「ブー」
と呼ばれている。和名は「カラムシ」でイ
ラクサ科の植物。茎はやや木質性で一・五
メートルまで伸びる。



1 地にこげ茶色が鮮やかな八重山上布
2 八重山上布の機械織り風景
3 上布の糸となる苧麻の繊維
4 島の植物で染められた苧麻

この苧麻の茎を刈り取り、表皮を皮刃で十分に削いで繊維を取り出し、その繊維をさらに指先で細く裂いて長い一本の糸に連ねていくが、一定の太さの糸に續ぐのは根気のいる仕事である。

昔の女性たちは早朝から夜更けまで苧績みを続けていた。戦前は「糸績みができないとお嫁に行けない」といわれ、若いときから糸績みをさせられたが、今はお年寄りだけになっている。しかも、そのお年寄りが年々少なくなっているという。

「糸づくりをするお年寄りは、かつて上布を織っていたキャリアのある女性で、上布を知り尽くしている方ばかりです。だから、こういう糸で績いだら上質の上布ができるかをよく知っています。そのサイクルが今、不安定になっています」と語る新垣さん。上布を織る機から降りた女性た

織り手の個性がにじみ出る

新垣さんは、美しい糸に出会うと、どう使おうかと何日も考え悩まされるという。糸が上質であれば、それ自体がすでに優れた工芸品なのである。しかし、上質の糸に出会うのは容易ではない。

新垣さんの糸のこだわりは、沖縄県立博物館（旧）に所蔵されている百十年以上も前の八重山上布を調べ、糸と織りの



糸づくりの大切さ、難しさを語る新垣幸子さん



島の伝統をしつかり守っていききたいと語る島仲由美子さん

めの技法を用いて織り上げたものである。密な経糸でしっかりと経敵に織った細い帯のことだ。八重山地方では石垣島、小浜島、西表島で織られている。ミンサーの歴史は古く、アフガニスタン地方に源流をもち、チベット、中国を経て琉球王国時代に伝えられたといわれている。

原料となる木綿は、十七世紀初期ごろから利用され、琉球王府は八重山や宮古での栽培を奨励した。今でも「シマウォーター」という言葉が残っており、広く栽培されていたことが分かる。しかし、その木綿を着用できるのは国王や上級士族だけだった。

ミンサーは帯が主流で、芭蕉布の着物などを着けたときに腰に固く結ばれる。女性性は「ウシンチー」という無帯装束の装いだつたが、男性は野良仕事の際にしっかりと帯を締めていた。

ミンサー帯の紺や藍の生地に浮かび上がる白い縞模様は、長方形に近い四角を四つ、五つと組み合わせた単純なものだが、その色のコントラストには清潔感が漂い、特異な美しさがある。竹富島の国指定の

模様に託されたメッセージ

重要無形民俗文化財「種子取祭」などでは、生成りの地に経縞や縞模様の芭蕉布の着物に、濃紺と白のミンサー帯を締めて踊る光景が見られ、祭りを一層引き立たせている。

ミンサーの模様は、白色と藍色の繰り返しが原型で、外側から内側に向けて、白と藍の繰り返し模様が二列になって続いている。これはムカデの足に似ていることから「ムカデアシ」と言い、二本の線を「ダテスジ」と呼んでいる。主要な模様は中央にある四方形を五つ組み合わせた形の「五つ玉」と、四つ組み合わせた形の「四つ玉」がある。その二つの図が交互に並んでミンサーの柄ができていく。

竹富島織物事業協同組合理事長の島仲由美子さんは、「島の人は四つ玉を『梅の花』、五つ玉を『インスベ（犬の足）』とも呼んでいます」と話す。しかも、その図案には、島の若者たちの恋愛に関するメッセージが託されている。「五つ玉」と「四つ玉」の数については、「い（五）つ（世）（四）までも」という意味が掛けられている。

さらに、「ムカデアシ」は、愛しい人に「足繁く通つて来てください」という思いが託され、「ダテスジ」には「道を踏み外すことなく、末永く愛が育まれていきますよう



染料には、八重山に自生しているヤマノイモ科の植物のクール（紅露・ソメノイモ）が使われている。クールは他の染料と違って煮出す手間がかからず、イモをすりおろして搾った汁がそのまま染料になるという便利なもの。しかも上質で糸に染料を搾り付けるだけで染まるという。八重山上布の特徴であるこげ茶色の縞柄は、このクールによって染め上げられたものである。

この他、藍色を染めるためのキブイ、茶系のシャリンバイ、淡い黄色のヤマモモ、黄色のフクギ、クチナシ、ザクロ、赤褐色系のヤエヤマヒルギなど、八重山は植物染料の宝庫なのである。

また、捺染の八重山上布は鮮やかな色を出すために「海ざらし」が行われる。八重山の透明な海と強い太陽の下にさらしていると、染め抜かれた布の色が一段と鮮

に」という意味が込められているという。

島仲さんの説明によると、竹富島にあった昔の通い婚の風習に由来するもので、男性の求愛に対する返事として、女性は一生懸命にミンサーを織り、男性にあげた。そのことが言い伝えられて、今日に及んでいるということである。

誰がこのような意味づけをしたかは分からないが、島人たちのおおらかな感性が伝わって

くる伝説である。なお、女性が心を込めて織ったミンサーを受け取った男性は、島に自生している植物の実（方言でウシン玉という）に糸を通して作ったネックレスを贈ったという。島を観光する若い男女に、この話をする、ミンサー帯を買い求める人が多くなるが、島に滞在する観光客は少なく、数はそれほど多く出ないという。

このため、島仲さんたちは、お土産品店でも売れるように問屋さんからの注文にも応じている。ミンサーは藍染めが一般的だが、注文に応じて紺や黄色、こげ茶など

関係を綿密に調査・研究してきたことによる。さらに古文書もひもとき、王府時代の「御用布座公事帳」を読み解き、日本民藝館にも出かけて上布の調査も行った。

捺染（摺込）の染料には、八重山に自生しているヤマノイモ科の植物のクール（紅露・ソメノイモ）が使われている。クールは他の染料と違って煮出す手間がかからず、イモをすりおろして搾った汁がそのまま染料になるという便利なもの。しかも上質で糸に染料を搾り付けるだけで染まるという。八重山上布の特徴であるこげ茶色の縞柄は、このクールによって染め上げられたものである。

八重山ミンサー

縞模様が鮮やかな木綿の帯

竹富島は現在、八重山観光の中心的存在となっているが、かつての竹富島では、終日、島のあちこちから機械織の音が絶えなかった。島の女性たちが毎日織り続けているのが八重山ミンサーである。

ミンサーというのは、木綿を素材にした織物で、白い部分を残して染める「括り染



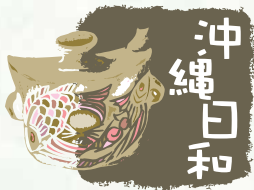
5 五つと四つの縞模様
6 八重山ミンサーの機械織り
7 島の風景に映える八重山ミンサー



の染色も行っている。その他、ミンサー帯の枠にとらわれず、テーブルセンターや袋物などバリエーションも広がっている。

「民芸品としての伝統工芸のミンサーは守つていきながら、織り手の女性たちが生活できる収入も確保しなければなりません。しかし、観光客が民芸館に立ち寄る時間的な余裕がないツアーが多く、島だけでは解決できない問題も多くあります」と語る島仲さんでした。

取材協力 石垣市織物事業協同組合 竹富民藝館 竹富町織物事業協同組合



民族音楽との出会い

声楽家・民族音楽研究家 比嘉悦子

歌うことが大好きだった私は小学校の頃から学校の合唱部、RBC児童合唱団を掛け持ちしながら歌い続け、将来はオペラ歌手になることを夢見ていました。しかし、そんな大それた夢は現実的ではなく、高校の頃からは英語の先生になつて自立しようと思ひ、受験の準備と英語の勉強にいそしんでいたのです。当時はまだ復帰前で、国費（日本政府の援助で設けられた国費琉球学生制度）を受けるか米留学試験を受けるかと悩み、試験日時の早かった米留学（占領地域統治救済資金、ガリオア資金による留学制度）を受験して無事合格しましたので、国費試験を受けずにそのままハワイ大学へと進学しました。

三月に高校を卒業してハワイへ旅立つ前までの三ヶ月間は首里の龍潭池沿いにある英語センターで、六月にハワイへ到着してからは九月の新学期開始まで、留学生のための英語研修を受けてから

正規の授業に臨みました。しかし、現実にはそう甘くありませんので、講義の半分も理解できません。当初はできるだけ語学の負担の軽い授業からと、数学、体育、音楽等の教養科目から受講し始めました。そこで出会ったのがカルビン・カレン先生です。

カレン先生が声楽の先生だったというのが運命的な出会いでした。その先生が私の声を気に入り、声楽の勉強をしないかと音楽部に誘ってくれたのです。その後はカレン先生からソプラノのアネット・ラウエル先生に紹介されて、メトロポリタン声楽コンクールの太平洋洋子選に入賞させて頂いたり、オペラ公演の舞台にも立たせて頂いたのですが、卒業間近になつてもう一人の重要な恩師と出会いました。

それがバーバラ・スミス女史です。彼女は、アメリカにおける民族音楽学の先駆者で、八十八歳の現在でも現役、そして生涯をハワイ大学民族音楽学科のために

捧げています。独身で「私の子供はあなたち」と言つて、今でもメールや手紙で叱咤激励し、学会への参加を呼びかけてきます。私はその先生に連れられて『琉球の歴史』の著者、ジョージ・カイ博士宅を訪問したり、シガン大学教授で九十七年に『東洋民族の音楽』を著したW.P. マルム博士など、多くの著名な音楽学者に紹介して頂きました。

私は大学の専攻を二年目で変更したため、五年かかつて学部を終えました。五年目は声楽の必須科目のみが残り、単位数にゆとりがあったため、同じ学部内で民族音楽の科目として教えられていた沖縄三線のクラスや雅楽のクラスなどを覗き歩き、何人かの学生から沖縄音楽のことについて質問を受けるようになっていました。しかし、琉球の歴史も音楽も学校では全く教えられた覚えがなく、自分の無知とアイデンティティの狭間で悩むようになっていたのです。また、東洋人で

体の小さな私がオペラの世界に進む難しさも感じていました。

そんな時に私に話しかけて下さったのがスミス先生でした。私に大学院に残つて民族音楽を勉強する気はないのかと、当時は、何気なく聞いて下さつたように見えたのですが、私もだんだんその気になつて民族音楽の道を選ぶ結果となりました。最初はアイヌ音楽の研究をしようかと思つたこともありましたが、スミス先生は私に沖縄音楽の研究をさせたがためにその道に導いたようです。大学院では音楽科助手の仕事まで準備していてくれました。

しかし道は険しく、私は沖縄古典音楽の流派の比較をしようと、ひと夏沖縄に戻り、金武良章、宮里春行、宮城嗣周各先生方や現在人間国宝となられた島袋正雄先生や照喜名朝一先生宅などを訪れて、それぞれの歌を録音して持ち帰りました。それらの歌を分析して論文を書いてもスミス先生はなかなかオーケイを出してくれません。何度も書き直して卒業できたのは大学院入学から四年目のことでした。

その後、沖縄音楽の講座などを作つてもらつて教える機会も得たのですが、家

庭の事情で一九七七年、留学した年から十年目に帰郷しました。私が本格的に村々の祭りを訪ね歩くようになったのはそれからです。沖縄本島北部のウンジャミ（海神祭）やウスデーク、豊年祭、そして中部のわらべ歌採集や民謡採集など、八〇年代に各地で始まった市史や町史づくりに歌謡を加えてもらつて、多くのお年寄りから何百という貴重な歌とそれにまつわる様々なお話を聞かせて頂いたことは、今でも私の財産となっています。

最近には沖縄県が始めた「幻の宮廷楽」、御座楽の復元研究に関わらせて頂き、今また、首里城の方でも始めた御座楽調査の調査員に加えてもらつてゐるのですが、単なる歌好きに始まった私の人生が、さまざまな出会いに導かれてここまで来たことを、還暦という年の節目に振り返り、不思議な思いにかられています。

比嘉悦子のひがえつこ

一九四八年、沖縄本部町生まれ。那覇高校を卒業後、ガリオア奨学金を得てハワイ大学入学。同大学院修士課程修了。一九七七年帰郷。県内各大学で教鞭を執り、一九九六年に沖縄コンベンションセンター館長、二〇〇七年に浦添市でたしホル館長に。声楽家であり民族音楽研究家でもある。



財団の事業紹介

当財団では、国民の心身の健全な発達を目的に、国営沖縄記念公園（海洋博覧会地区・首里城地区）の維持管理業務を行うとともに、亜熱帯性動植物に関する調査研究及び技術開発ならびに知識の普及啓発、首里城に関する調査研究及び知識の普及啓発活動を実施しており、その成果についてご紹介いたします。

〔植物課〕

国内最大級の洋蘭展示会

～沖縄国際洋蘭博覧会～

はじめに

沖縄国際洋蘭博覧会は、国内外の洋蘭愛好家並びに生産者等が情報交換を行い、洋蘭を広く国民へ普及を図るとともに、優良品種の確保、保存、花弁園芸の普及並びに芸術文化の創造、観光振興等に寄与すること並びに都市緑化の推進、公園の利用促進を目的として開催しています。

本博覧会は、海洋博公園内に熱帯ドリームセンターを開園したことを機に昭和62年2月に第1回大会を開催して以来、今年の平成20年2月で22回目を迎え、国内で最も歴史のある国際的な規模の洋蘭展に成長しました。回を重ねる毎にラン関係者の関心も高まり、一般公募による審査会への参加者は年々増加しています。



オーキッドプライダル



2007年外国出展審査優秀賞／外務大臣賞 タイ／Mr.Prakong Pimsarn／バンダ交配種



デンドロビウム「アイ・ミヤザト」新品種展示



ランの栽培教室



国内外審査員による審査風景



2007年ディスプレイ審査優秀賞／国土交通大臣賞／沖縄県立北部農林高等学校
テーマ「萌動・光彩～木の芽とき～」



会場内展示風景



2007年フラワーデザイン審査優秀賞／文部科学大臣賞 沖縄県うるま市／島袋つや子さん／テーマ「花まつり」



2007年最優秀賞／内閣総理大臣賞
台湾／Mr. Su En Kao／リンコスティリス属

博覧会が国際的な蘭の展示会として更に発展することが期待されています。

審査の内容

沖縄国際洋蘭博覧会の審査会は認定審査とコンクール審査に大別されています。認定審査は新花を対象として実施しており、入賞株はバックバルブ等株の一部を寄贈して頂き優良品種の保存に役立っています。

またコンクール審査では最優秀賞にあたる沖縄国際洋蘭博覧会大賞に内閣総理大臣賞（2000年より交付）が授与されるほか、5つの審査部門（鉢物／切花／ディスプレイ／フラワーデザイン／外国出展）の各優秀賞にはそれぞれ大臣賞が授与されています。植物の展示会でこれだけの賞が交付頂けるのもこれまでの実績と普及啓発活動が評価されたものと考えています。（10ページ／歴代大賞参照）

今年度の事業展開

沖縄国際洋蘭博覧会では洋蘭審査・展示会と同時に関連催事が会場各所で行われます。前回実施した『デンドロビウム「アイ・ミヤザト」新品種展示』はデンドロビウムの新品種に県出身著名人「宮里藍さん」の名前を登録し、一般公開を行ったもので、その可憐な花を一目見ようとする入場者で会場が賑わいました。

今年度はランを生活の中に身近に感じてもらうためランに触れ合うのをテーマに掲げ、体験型のイベントの充実に努めます。予定されている催事としては沖縄県蘭協会、（社）日本フアラ

世界最大級といわれる熱帯ドリームセンター内にある3棟の蘭温室を主会場として、野生の雰囲気を感じさせた蘭の展示は他に類を見ないことから、愛好者ならずとも蘭の世界を十分に楽しめる展示会となっており、入場者からも高い評価が寄せられています。これまでの開催では外国からは台湾をはじめとする東南アジアを中心に、イギリス・ドイツ・ハワイ等世界各地より、国内では北は北海道から南は沖縄県に至る多くの都道府県から出展がありました。

アジア太平洋蘭会議の開催

2013年（平成25年）には20以上の国と地域が参加し、3年ごとに開催される国際的にも最大規模の蘭の祭典「第13回アジア太平洋蘭会議」が当公園を主会場に開催されることが決定し、本

ーデザイナー協会、沖縄県華道連盟等がそれぞれ講師を務める「栽培教室／栽培相談コーナー」や「コサージュ教室」、「いはばな教室」を中心に、国内外の専門家を招聘して行われる「ランに関する講演会」毎回テーマを替えランの魅力に触れる「世界の珍しいラン展」、ランを用いたライフスタイルの紹介を行う「ランと生活展」、「ボタニカルアート体験教室」等が開催されます。また「展示即売会」、「オーキッドコンサート」、「オーキッドプライダル」により会場を華やかに演出する他、「第13回アジア太平洋蘭会議」の開催地決定を記念したパネル展を実施する予定です。

おわりに

沖縄国際洋蘭博覧会は冬期に開催される沖縄のビックイベントとして県内外の蘭愛好家、生産者、一般市民に広く認知され毎年多くの入場者を迎えています。

また、本博覧会は東南アジアを中心とした海外の蘭関係者からも強い関心が寄せられており、洋蘭に関する情報交換の場としてさらなる充実が期待されています。

本博覧会の魅力作りにおいても展示方法や関連催事等を再検討して多くの入場者に満足していただけるよう心掛けると共に、今後も国内外の蘭関係者とのネットワークを保ち、博覧会内容の更なる充実に努めてまいります。

【下地俊充】

沖縄国際洋蘭博覧会／歴代大賞紹介

※内閣総理大臣賞は2000年より交付

1990/ 第4回 (株) 沖縄緑花開発センター
沖縄共同ベルディ(株)
テーマ「沖縄から世界へ」1989/ 第3回 宮城 幸栄(沖縄)
ブラッソレリオカトレヤ属1988/ 第2回 当間 幸吉(沖縄)
ブラッソレリオカトレヤ属1987/ 第1回 島袋 仁勇(沖縄)
ブラッソレリオカトレヤ属1994/ 第8回 大津 豊隆(神奈川)
バフィオペディウム属1993/ 第7回 合田 一之(東京)
バフィオペディウム属1992/ 第6回 仲宗根 政子(沖縄)
バンダ属1991/ 第5回 松永 功(沖縄)
エウロフィエラ属1998/ 第12回 古山 勝巳(千葉)
バフィオペディウム属1997/ 第11回 中島 文子(神奈川)
デンドロビウム属1996/ 第10回 唐澤 耕司(沖縄)
プルボフィルム属1995/ 第9回 大城 肇(沖縄)
バフィオペディウム属2002/ 第16回 永井 清(神奈川)
デンドロビウム属2001/ 第15回 稲嶺 盛昭(神奈川)
エピデンドロム属2000/ 第14回 高橋 國正(香川)
アングレカム属1999/ 第13回 長東 恵美子(大阪)
ブラッソレリオカトレヤ属2006/ 第20回 川 博久(岡山)
バフィオペディウム属2005/ 第19回 中島 文子(神奈川)
デンドロビウム属2004/ 第18回 石井 春枝(神奈川)
レリオカトレヤ属2003/ 第17回 佐藤 壮夫(奈良)
デンドロビウム属

【魚類課】

沖縄の外来種問題

はじめに

沖縄の川の中は、グッピー、ティラピア、ブレコ、グラスフィッシュ、ゼブラダニオ、ソードテール等、色々な魚で賑わっています。しかし、今挙げた魚は、すべて外来種です。

外来種という言葉をよく耳にするようになったのは、5、6年程前からだったと思います。

外来種について分かりやすく説明すると、「もともといなかった場所に、人間によって持ち込まれ、そこに棲み着いてしまった生き物」のことを言います。人間は様々な目的で生き物を持ち込みました。食料が少なかった時代は、養殖して食べる為、害虫やハブを駆除するなど人間の生活を改善する為、愛玩動物として、その他荷物に紛れ込んで、など全て人間が関わっています。

外来種問題

外来種は様々な問題を引き起こします。本来自然の中では、その地域に昔から生息していた生き物(在来種)同士が互いに微妙なバランスの中で暮らしています。そこへ外来種が入り込むと、生物同士のバランスは崩れてしまいます。外来種が、在来種を食べる、在来種の餌を食べ尽くす、住みかを奪う、在来種と外来種の雑種が生まれる、病気を持ち込むなど、在来種に与える影響は様々

です。種によっては、人間に噛みつきたり、襲ったりすることもあります。毒や病気を持つている種や農作物などを荒らす種もあります。そして、一度持ち込まれ、住み着いてしまった外来種を完全に駆除するのは非常に困難です。

沖縄の現状

生物多様性の保全に様々な影響をもたらす外来種問題は、沖縄では特に深刻です。沖縄県は多くの島々から成り立っています。周りを海で囲まれた島では、島外から生き物が侵入することがほとんどありません。その為、島の生き物は侵入生物との競争に慣れておらず、侵略的な外来種が持ち込まれると競合し、減少していく在来種が多いと言われています。また、島は海によって隔離されている為、独自に進化してきた生き物が多く、特に沖縄は珍しい生き物の宝庫です。このような種は、外来種との生存競争(外来種との競合)だけではありませんが、で絶滅してしまうと、地球上から消えてしまうこととなります。代表的な生き物が、イリオモテヤマメコやヤンバルクイナ、リュウキュウアユ、ヤンバルテナガコガ



図1 「沖縄の外来種展」ポスター

ネなどです。

気候的要因

沖縄の亜熱帯気候も外来種を増やす要因となっています。亜熱帯気候は、暑すぎず、寒すぎない気候の為、亜熱帯の生き物以外にも熱帯や温帯から持ち込まれた生き物も野生化することが出来ます。その為、次々と新しい外来種が増えていきます。特に最近増えてくるのが、水の中の外来種です。観賞魚として持ち込まれた熱帯魚が飼いきれない等の理由で川や池に放され、野生化したものです。代表的な魚には、グッピーや南米産ナマズのブレコ(マダラロリカリア)などがあります。

おわりに

沖縄美ら海水族館では、沖縄の河川で在来種よりも普通に見られる魚となつてしまったティラピアの子育ての様子や、祭りなどよく販売されている小さなメドリガメことミシシippアカミミガメの30年後の成長した姿を展示しています。また、平成16年には、沖縄の水辺の外来種を特集し、特徴や問題点に焦点を当てた「沖縄の外来種展」(図1)を開催しました。当館では、今後も外来種の危険性や沖縄の外来種問題をできるだけ多くの方に知って頂く為に、常設水槽や企画展を通して、外来種を紹介していきます。

【松崎章平】



モザンビークティラピア



ブレコ



グッピー



ミシシippアカミミガメ



リュウキュウアユ



沈金勉強会風景



秋田曲げわっぱ調査・制作風景

調査の中で、古絵図等の基礎調査を実施し、主に「冠船之時御道具之図」と呼ばれる古絵図に描かれている道具類を解析し、復元制作を行いました。また八重山諸島・奄美大島などに残される類似事例の調査や地元の方の古来の聞き取り調査等を重点的に実施いたしました。調査の結果、道具類の細部にわたる形状及び漆塗り・金箔押など塗装方法が明らかになりました。

御床飾調査について

御床飾とは、三御飾と同様に、正月儀式の際に二階御差床へ飾られた道具類です。香炉・龍・蠟燭・金花・雪松と呼ばれるもので構成されており、漆器4点、陶器3点、その他2点となっています。

御床飾とは

漆器調査の結果、制作では沈金といわれる技法が使用されていると考えられ、往時の琉球漆器の沈金刀は、現在使用されている道具とは異なる事は以前から言われていましたが、今回その道具から復元を目指すこととなり、沈金勉強会が立ち上げられました。

沈金勉強会は平成14年度より開始し、現在でも3名の漆芸作家の方々が、現存する古い漆器の加飾の線を再現するために検討を続けております。現在、日本国内で使用されている沈金刀の情報収集や様々な形状の道具での沈金加飾再現について検討を行っており、最終的には、自ら沈金刀の制作が可能になるように今後とも検討を続けていきます。



金花 (左)
花・茎・花瓶とも木製で、花・茎は、木地の上に漆を塗り、金箔を貼って制作されています。



龍・蠟燭 (右)
木製の蠟燭に龍の彫刻が絡みつくように制作されている飾り道具で、龍・蠟燭・台座ともに木製。龍・蠟燭は漆を塗った上に金箔を貼って制作されました。



香炉制作検討風景

【おわりに】
現在、正殿二階御差床にて飾られた御床飾道具につきましては、全て完成し、南殿特別展示室においてお披露目展示が行われました。本来の場所である正殿二階御差床での展示方法についても検討を進めていきたいと考えております。

三御飾道具は、先行している漆器類は、加飾紋様については検討が終了し、実際に制作を行う段階に入ってきております。沈金勉強会でも着実に成果が上がっており、往時の琉球沈金が再現可能な所まで来ていると思われます。しかし金工品や紙製品など、史料があまり多く残されていないものについては、今後とも史料を収集し、また制作にむける技術検討を行っていき、継続的な調査を実施していきます。

【幸喜淳】

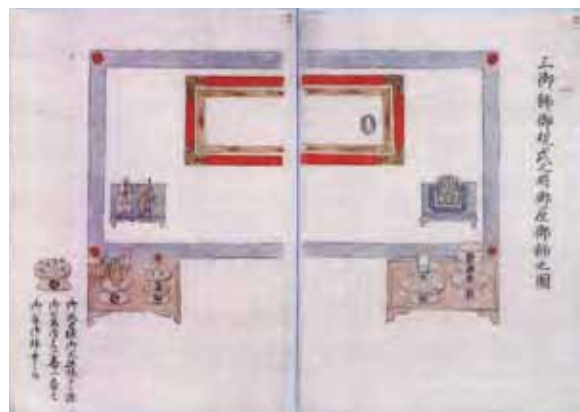
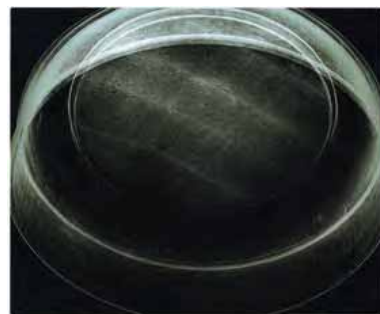


図1 三御飾御規式之時御座御飾之図 (沖縄県立芸術大学所蔵)

三御飾調査は、「三御飾御規式之時御座御飾之図」を解析することから始まりました。絵図に描かれている様々な器物が一体何であるのか、その役割は何なのか、首里城で行われていた正月儀式のなかで、どの様に使われていたのか、現在残されている資料から検討を進めました。比較的現存する資料の多い漆器類については、同形態と考えられる類似品の資料収集を行い、絵図の収まりによる規模形態や紋様などの整合性を高めました。沖縄県内外に残される漆器について、透過X線調査、蛍光X線調査など、理化学調査を行い、数多くの資料を収集しました。透過X線調査というのは、いわゆるレントゲン撮影です。漆器のレントゲン撮影を行うことでどの様に木地が作られているのか判断することが出来ます。蛍光X線調査といわれるものは、

器物にX線を照射することで、どの様な元素を持ったものが内在しているのかが分かる調査で、それによってどの様な鉱物・金属などが使用されているのか判断することが出来ます。これらの非破壊的な理化学調査によって、琉球漆器の木地制作において巻胎と呼ばれる木製テーブの巻き上げ技法が使われていることが分かりました。



透過X線写真



朱漆吉字紋牡丹唐草七宝餐食籠 (しゅうるしきちじもんぼたんからくさしっぽうつなぎじろう)

【首里城公園】 首里城正殿御道具の 復元について

はじめに

当財団では、首里城正殿内の展示充実のため、平成13年度より、三御飾復元制作業務を行っております。現在、往時の首里城正殿一階において正月儀式に使用された三御飾道具類、正殿二階御差床の御床飾を復元することを目指し調査及び復元制作を実施しております。

三御飾とは

首里城正殿一階において正月儀式の際に飾られたお飾り道具の事で、漆器類・金工品・紙製品など様々な器物を飾っています。現在復元を進めているものは、漆器17点、金工品20点、紙製品2点、その他2点となっています。図1の古絵図に描かれているような道具が飾られていました。

三御飾調査について

三御飾調査は、「三御飾御規式之時御座御飾之図」を解析することから始まりました。絵図に描かれている様々な器物が一体何であるのか、その役割は何なのか、首里城で行われていた正月儀式のなかで、どの様に使われていたのか、現在残されている資料から検討を進めました。比較的現存する資料の多い漆器類については、同形態と考えられる類似品の資料収集を行い、絵図の収まりによる規模形態や紋様などの整合性を高めました。沖縄県内外に残される漆器について、透過X線調査、蛍光X線調査など、理化学調査を行い、数多くの資料を収集しました。透過X線調査というのは、いわゆるレントゲン撮影です。漆器のレントゲン撮影を行うことでどの様に木地が作られているのか判断することが出来ます。蛍光X線調査といわれるものは、

猿長者

さるちょうじゃ



昔、日も落ちた頃、みすばらしいお爺さんが、雨の中、ある家に着いた。そこは下男も下女もたくさんいる金持ちの家で、ここだったら泊めてもらえるかもしいれなれなと思って、「お腹もすいて、雨にも濡れているから、少しでいいから、なにか食べさせてください」とお願いした。

下男は、「今日は何の日だか分かっていないのか」と言ってみすばらしいお爺さんを怒った。そこへ金持ちの男主人がやって来て、「今日は大雨の日だ、分かっていないのか。早く仕事をしないとだめじゃないか」と下男を怒った。下男が、「食べ物をもらいに、みすばらしいお爺さんが来ているんですが」と答えると、「この忙しいのに、追い立てなさい」と男主人は言った。

みすばらしいお爺さんは、金持ちの家から出て、仕方なく歩いてみると、隣に雨も漏りそうなあばら屋があった。みすばらしいお爺さんはそこに行き、「一晩ここに泊めてくれないか」と言った。その家では、お爺さんとお婆さんが、囲炉裏（いろり）で薪を燃やして暖まっていた。

「こんな夜に雨にも濡れて、どろどろに入って下さい。食べ物も、お茶もないですが、どうぞ暖まって下さい」と言ってみすばらしいお爺さんを家の中に入れて、お湯を沸かして飲ませた。そして、

着物も乾かしてあげたら、みすばらしいお爺さんが、「あんたがた、今日はなんの日か分かっていないか」と二人に聞いてきた。「今日は歳の夜ですが、このように食べるものもないです」と答えた。

すると、みすばらしいお爺さんは、「鍋はあるか。あるなら、鍋に水を入れて火にかけてもらい」と言った。お爺さんが湯を沸かし、みすばらしいお爺さんが、白い粉を鍋に入れた。すると、鍋いっぱいのご飯ができた。お爺さんとお婆さんはびっくりした。「じゃあ、もう一つ鍋を出しなさい」と言うので、また同じように、もう一つの鍋に湯を沸かすと、また、白い粉を入れた。そうしたら、今度はいろんなごちそうがたくさん出てきて、「今日は歳の晩だから、これを三人で食べて年を越そう」と言った。お爺さんとお婆さんは、びっくりするやら、珍しきやら、夢中で食べてしまった。お腹がいっぱいになって、薪を燃やして暖かいので、いい気持ちになって、そのまま眠ってしまった。

夜が明けたら、みすばらしいお爺さんは、「夕べは泊めてくれて助かった。お礼がしたいのだから、何がいか、お金がいいか」と言った。お爺さんとお婆さんは「お金も欲しいですが、働けばお金は入ります。そのために若くなりたいです」と答えた。すると、

みすばらしいお爺さんは、「大きな鍋はあるか。それで、お湯を沸かしなさい」と言った。お爺さんが、「大きい鍋は無いのですが」と答えると、「じゃあ隣の金持ちの家に借りてきてきなさい」と言われた。

お爺さんが、その通り借りてくると、みすばらしいお爺さんは「それに、お湯をいっぱい沸かしなさい。それで二人で浴びなさい」と言った。言われるように、そのお湯を浴びたら、元日の日に二人は急に若くなって、青年と娘になった。

二人は、何から何まで不思議なことばかりなので、「あなた達は普通の人間ではない。神様でいらっしゃるのか」と聞くと、「そうじゃない。神様はこんな身なりをしていない。あんたがたが、常日頃から心持がいいから、誰かの褒美（ほうび）なんだよ」と答えた。そして、「この鍋は、いつまでも借りていたらいけないから二人ですぐ返しに行きなさい」と言って持って行かせた。

金持ちの男主人は、どこの若者が来たのかと、最初のうちは本気にしなかったが、二人の案内で隣のあばら屋に行き、みすばらしいお爺さんがいた。二人が事情を話すと、金持ちは「私の家にも来てくれないか」と言ってみすばらしいお爺さんを家に連れていった。金持ちは自分

も若くなりたいたいと思って、たくさんごちそうを作って「食べただけ、食べなさい」と、みすばらしいお爺さんに言った。「隣でたくさん食べたからもういい。それで、何か私に用があるのですか」とみすばらしいお爺さんが言うと、「私達も、あの二人のように若くしてくれ」と頼んだ。すると、「うん、おやすいご用だ。それじゃ鍋を二つ出して、それにお湯を沸かしなさい」と、みすばらしいお爺さんが言った。

金持ちは、大きな鍋にお湯を沸かせた。みすばらしいお爺さんは、「こっちは女たちのお風呂、こっちは男たちだ、浴びなさい」と言ってみすばらしいお爺さんに、「男はみんな裸になつて、女はみんな鳥（からす）になつて、山に逃げていった。みすばらしいお爺さんは、「金持ちの家の家には、もう誰も住まないから、あんたがたが住みなさい。他に何か欲しいものがあるか」と聞いた。二人は「若くなっただけで十分です。これからうんと働きましますから、これ以上何も欲しくありません」と答えた。

しかし、この家に若夫婦が住むようになると、猿たちが毎日文句を言い、騒ぎにきた。「わしらの家だつたから返せ、返せ」と言つて、庭の垣根で大変な騒ぎようで、鳥は枝にとまってグワーグワーと騒いで、「どつしらいいかなあ」と困っていた。

ちょうどそのときに、また、みすばらしいお爺さんが通りかかったので、事情を話すと、「そうか。それなら、猿がいつも来て座るところに、羊を置いて、側に石を焼いておきなさい」と教えた。若夫婦は言われた通りに焼いた石を置いた。そこへ猿が来て座つた。すると、猿はお尻をやけどして、お尻が赤くなり、家には来なくなつた。鳥はどうしたかといふと、「お羊を炊いて、鳥がとまる木の枝のところに立てて置いたときなさい」と言われたので、置いていた羊だったので、口をやけどしてしまつて、それから鳥の口はみんな赤くなつたそうだ。

大歳譚（おとしたん）

この話は、大歳譚と呼ばれるもので、沖縄県全域で聴取されています。大晦日に神が現れるという信仰は世界的なものですが、中国では仏様が、韓国では道士が、西欧ではキリスト教の聖人である神々が現れて、様々な奇跡を現す日になっています。日本でも「常陸国風土記」に「ひたひたのくにふとどきに、祖先の神が富士と筑波（つくば）を訪ね、一夜の宿を借りようとしたところ、富士は断つたので、今でも雪と氷に閉ざされた山になり、早く泊めた筑波山は、春と秋に人々が集う山となつた」という伝説があります。沖縄では、もちろん祖先の神々が子孫の家々を訪れて、子孫を祝福する日になっています。



首里城公園



第二部「朝之御拝」

二〇〇八年の新春の幕開けを首里城公園で迎えてみませんか。首里城公園では、お正月、往時のエッセンスを盛り込んだ新春の儀式を再現します。国王をはじめ諸臣が一同に御庭にて儀式に参列する姿は圧巻です。ぜひこの機会に、往時の厳かな雰囲気味わってみてください。

一月下旬からは、首里城花まつりを開催。首里城にふさわしい草花の造形物で園内を装飾し、みなさまをお迎えます。期間中は、楽しいイベントもご用意しております。

※詳しい内容は下記をご覧ください！

琉球王国の栄華が今甦る

平成十九年度 首里城公園 一月～三月期イベント

平成19年度 首里城公園「新春の宴」

期間中、首里城ならではの特色ある正月装飾が施された御庭にて、「朝拝御規式」という琉球王朝時代の朝賀の儀式を三部構成にて再現します。

●1月1日(火)～3日(木) 9:00～17:00

※有料区域でのイベントは、通常の入館料が必要です。

●お問い合わせ／事業課業務企画係(TEL098-886-2020)

場所	御庭・下之御庭	入館料のみ
----	---------	-------

朝拝御規式

第一部 子之方御拝(にぬふあぬうふえー)

天の神様への拝みの儀式で、国王・王族・王府の高官である、摂政・三司官から諸侯、庶民の代表である各間切のウツサバキが参列し、北殿側に設けた祭壇に向かって新年を寿ぎ、平和と豊を祈念した儀式。

第二部 朝之御拝(ちようぬうふえー)

年頭にあたり、諸人が国王の聖寿を祝い琉球王国の繁栄を祈る儀式。

第三部 大通り(おおとーり)

国王を初め諸臣が順位に、祝いの杯を回し飲み、国王が朝賀に出席して、諸臣を祝福したことに感謝するとともに、国王・王子・王孫の繁栄を祈る儀式。

●1月1日(火)～2日(水) 10:00～11:40

※有料区域でのイベントのため、通常の入館料が必要です。

場所	御庭	入館料のみ
----	----	-------

御座楽の演奏

御庭にて、御座楽を演奏し、来園者を厳かにお迎えします。

●1月1日(火)～3日(木) 9:00～9:20

※有料区域でのイベントのため、通常の入館料が必要です。

場所	御庭	入館料のみ
----	----	-------

御茶・お酒振る舞い

琉球王朝時代、正月に各諸官へ振る舞われたことにちなみ、祝いの酒として、来園者へ振る舞います。

●1月1日(火)～3日(木) 9:00～17:00 ●定員/なし

場所	下之御庭	無料配布
----	------	------

古典舞踊等

下之御庭張り出しステージにて、正月にふさわしい華やかな古典舞踊等を披露し、来園者をお迎えします。

●1月1日(火)～3日(木) 12:30～16:40

場所	下之御庭	無料
----	------	----

祝賀の鐘撞き

首里城公園御屋において「万国津梁の鐘」を来園者に撞いていただき、首里城公園にて新年をお祝いします。

●1月1日(火) 0:00～1:00 ※事前予約なし/当日の時間制限のみ

場所	供屋	無料
----	----	----

国王・王妃出御

首里城公園御庭において「国王・王妃出御」を行い、来園者をお迎えします。

●1月3日(木) 9:00・10:00・11:00 (3回出御)

※有料区域でのイベントのため、通常の入館料が必要です。

場所	御庭	入館料のみ
----	----	-------

平成19年度 首里城花まつり

昨年に引き続き首里城花まつりが開催されます。海洋国家として繁栄した琉球王国。国王・王妃などの草花の造形物で琉球王朝の姿を再現します。また、期間中は「国営公園フォトコンテスト2007」のパネル展示も予定しております。皆様のお越しをお待ちいたしております。

●1月26日(土)～2月24日(日)

●お問い合わせ／事業課業務企画係(TEL098-886-2020)



※写真は昨年度の実施状況です

琉球の文化遺産を
次代へ継ぐ
ために

琉球の文化遺産を
次代へ継ぐ
ために

首里城
基金事業
のお知らせ

先の大戦で国内外に散逸してしまった貴重な琉球文化遺産を収集・保存するため、当財団では県、市町村、各種団体、また多くの方々からご協力を得て、「首里城基金」を設立し、その事業内容の充実を図るべく、広く県内外に寄付を募っております。「首里城基金」の主旨をご理解いただき、皆様温かいご協力ご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

「首里城基金」の受付
〒903-0101 八重

沖縄県那覇市首里金城町一〇二
(財)海洋博覧会記念公園管理財団

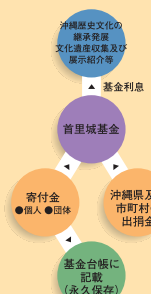
首里城公園管理センター
△お振込みの場合△

沖縄銀行首里支店普通 1318639
琉球銀行首里支店普通 6495

沖縄海邦銀行首里支店普通
04821155

口座名 首里城基金

首里城基金のしくみ



海洋博公園



正月催事「新春果報でーびる」餅つき体験

新年最初の催しは「新春果報でーびる」。沖縄のお正月体験が気軽に楽しめる季節のイベントです。期間限定の「冬休みイルカ学習会」も見逃せません。

二月には、日本最大級のラン展「沖縄国際洋蘭博覧会」を開催。「美ら海花まつり」期間中は、公園全体が色とりどりの花で埋めつくされます。そのほか、沖縄やアジアの伝統を感じられる体験フロアや自然とふれあえる催しも充実！海洋博公園で、一足早い春を感じてください。

※詳しい内容は下記をご覧ください！

平成十九年度 海洋博公園 一月～三月期イベント

新春果報でーびる

①琉球舞踊 ②獅子舞・エイサー ③餅つき体験・振舞い餅 ④くわちー振舞い(サターアングター) ⑤お茶振舞い ⑥縁日 ⑦ミニ風作り体験 ⑧コマ作り体験 ⑨琉球かるた体験 ⑩干支にちなんだ話の読み聞かせ ⑪すくろく・ぬりえ

●1月1日(火)～3日(木) 9:00～17:00

※各体験には定員がございます。詳細はお問い合わせください。

●お問い合わせ／業務課(TEL0980-48-2741)

場所	中央噴水広場・おきなわ郷土村・海洋文化館2階	無料
----	------------------------	----

冬休みイルカ学習会

イルカの生態、健康管理などに関するクイズラリーを開催します。

●1月1日(火)～6日(日) 16:20～16:50 ●定員/なし

●お問い合わせ／海獣課(TEL0980-48-2748)

場所	イルカラグーン	無料
----	---------	----

第29回海洋博公園全国トリムマラソン大会

海洋博公園を中心にやんばるの豊かな自然の中で開催される人気のトリムマラソン大会。

●1月13日(日) ●申し込みは終了しました。

●お問い合わせ／海洋博公園全国トリムマラソン大会事務局(TEL0980-48-2741)

場所	海洋博公園内外	見学無料
----	---------	------

美ら海花まつり

ジンベエザメやマンタなど水族館の人気者たちを形どった、かわい花の造形物がお出迎えます。

中央ゲートや噴水広場、水族館周辺に設置される模倣花壇も見応えあり！花いっぱい沖縄を楽しんで下さい。

●1月26日(土)～2月24日(日)

●お問い合わせ／海洋博公園(TEL0980-48-2741)

場所	中央噴水広場	無料
----	--------	----

平成19年度沖縄国際洋蘭博覧会

沖縄の冬のビッグイベントである国内最大級のラン展。会場となる熱帯ドリームセンターの大温室では、国内外から出展される1万点以上のランが美しさを競います。期間中はランに関する各種イベントも充実。南国沖縄でひと足早い春を楽しもう！

●2月2日(土)～2月11日(月)

●お問い合わせ／沖縄国際洋蘭博覧会事務局(TEL0980-48-3624)

場所	熱帯ドリームセンター	料金/大人670円 子供340円
----	------------	------------------



海洋文化館 アジア・オセアニアの民族芸能披露 ガムラン演奏会

インドネシア、バリ島の伝統的な音楽、ガムランの演奏会を海洋文化館で開催します。魅惑の演奏を是非お楽しみ下さい。

●2月3日(日) ●演奏会 13:00～13:30 15:00～15:30

●演奏会 14:15～14:45 15:30～16:00 ●定員/なし

●お問い合わせ／業務課(TEL0980-48-2741)

場所	海洋文化館	入館料のみ
----	-------	-------

黒糖作り体験

サトウキビから黒糖作りを体験できます。

●2月9日(土)～2月10日(日) 10:00～15:00 ●定員/1日30人程度

●お問い合わせ／業務課(TEL0980-48-2741)

場所	おきなわ郷土村	無料
----	---------	----

三線演奏体験

三線の日(3/4)の前に沖縄三線の演奏体験ができます。

●3月1日(土)～3月2日(日) 9:00～16:00 ●定員/1回10人程度 随時実施

●お問い合わせ／業務課(TEL0980-48-2741)

場所	おきなわ郷土村	無料
----	---------	----

植物のクラフト作り

●12月26日～1月31日/カレンダー作り ●2月1日～29日/アダンで星コロを作ろう ●3月1日～31日/フイで馬ぐりを作ろう

●毎日開催 ●団体(10名以上)でご利用の際は、事前にご連絡ください。

●お問い合わせ／都市緑化植物園(TEL0980-48-3782)

場所	都市緑化植物園	無料
----	---------	----

植物園ガイドミニツアー

事前予約して頂いた希望者に見本園をガイドツアー形式でご案内いたしております。

沖縄の都市緑化に適した様々な植物や利用方法を分かりやすく紹介します。＊環境学習プログラムも始めました。

●随時開催 ●要事前予約。お気軽にお問い合わせください。

●お問い合わせ／都市緑化植物園(TEL0980-48-3782)

場所	都市緑化植物園	無料
----	---------	----

グラウンド・ゴルフ

植物園では、グラウンド・ゴルフが無料でプレイできます。全24ホール設置で、ロングコース、ショートコースが選べます。緑豊かな植物園の樹木たちを眺めながらご家族、お友だち同士でお楽しみください！

●毎日開催 ●団体(10名以上)でご利用の際は、事前にご連絡ください。

●お問い合わせ／都市緑化植物園(TEL0980-48-3782)

場所	都市緑化植物園	無料
----	---------	----

※イベント内容等は変更になる場合があります。最新情報や詳細はHP等で確認をお願いいたします。(HPアドレスは裏表紙参照)